

長期戦略:テーマ 「カリキュラムの基本構造の改革」

Ⅱ.実施計画帳票

構想調書 1(5)③、3(1)①

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	山田教務機構長 (教務機構)	実施計画の 担当部署	担当部署 教務機構
-----------------------	-------------------	---------------	--------------

1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳 票
1-(12)-④ (SGU2-4-2:SGU7-5 の費用計画統合) (SGU2-4-2) シラバスの改良(大学院 GPA 導入の費用計画を統合)	2014 年度	2023 年度	必要【必須型】	不 要
内容				
<p>1. シラバスの英語化の促進</p> <p>本学においては英語で学位取得が可能なコースを有する学部、研究科を除いては英語による科目開講を積極的には推進してこなかった。しかし、今後のさらなる留学ニーズの高まりに対応した留学準備科目や、留学から帰国した学生の履修科目の提供等英語による授業科目の増強、本学のグローバル化の進展や教育の国際通用性の向上への要請が強まることが予想される。</p> <p>については、「1)科目情報の基本項目の英語化」を通じて、シラバス英語化の第1段階を実現する。なお、英語化(日英併記)する基本項目は開講キャンパス、管理部署、科目名称、担当者名、履修期とする。</p> <p>これらの施策を推進することにより、留学に伴う本学と受入大学との間での単位互換・単位認定作業を行う際にも活用ができるという点でも活用の幅が広がるが見込まれる。</p> <p>また、成績評価をする際に、外国人教員向けの対応として、英字を併記できるよう教務システムを改修する。さらに、システム全体の英語化対応については、2018 年度夏に予定されているシステムリプレースにおいて検討することが予定されており、情報環境機構と調整を行う。ただし、2018 年度夏のリプレースは現行ベンダーでのリプレースとなることが決まった(2016 年 1 月情報環境機構長室会)。</p> <p>2. 授業外学習時間の促進(シラバス記載ルールの改訂)</p> <p>日本人学生の授業外学習は欧米に比べるとかなり少なく、中央教育審議会やその傘下の会議体においても常に課題として取り上げられてきた。2012 年 3 月に出示された中教審答申では、学生が授業以外で主体的に学ぶ時間を増やすように各大学に求める提言をまとめている。また、その対応に向けた具体的な方策として、「カリキュラムの体系化(シラバスの高度化、ナンバリングなど)」、「教育方法の改善(アクティブラーニング導入や厳格な成績評価)」などの取組を拡充すべきとしている。</p>				

一方で、本学では、2013 年より神戸三田キャンパスにアカデミックコモンズが、2014 年度より西宮上ヶ原キャンパスにラーニングコモンズが整備され、授業時間外に学習を行う空間整備が進みつつある。また、2013 年度 9 月より新シラバスシステムが導入され、授業目的・到達目標の明示、授業計画の明確化、成績評価項目・基準の厳格化・明示に加え、教科書や参考文献を OPAC リンクさせることで授業時間外学習を活性化させる取組を推進してきた。

本施策では、近年の動きよりさらに踏み込み、各授業の授業進行に合わせて、定期的に授業時間外学習が行われる教育－学習の仕組みがより自然なものとなるよう、シラバスシステムを改修することを通じて、授業時間外学習を促進する。

具体的には、各回の授業回の実施内容の右欄に具体的な授業時間外学習の内容(リーディングアサインメント等含む)を記載する欄を設定する改修を想定している。なお、授業時間外学習への大学としての取組姿勢が、昨今の補助金事業における重点項目化されつつあることもあり、可及的速やかに教育力向上部会(2017 年度よりFD部会に名称変更)で検討を行う。必要な手続きを経て、2018 年夏に行われる次期のシステムリプレイスで各回の授業時間外学習内容記載欄を設け、入力を推奨していく。

進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式
指標1	1(5)③ シラバスの英語化の状況・割合	シラバスを英語化している授業クラス数 うち学部 (毎年度 5 月 1 日時点)
指標2	1(5)③ シラバスの英語化の状況・割合	シラバスを英語化している授業クラス数 うち大学院 (毎年度 5 月 1 日時点)
指標3	参照指標	全授業クラス数 うち学部 (毎年度 5 月 1 日時点)
指標4	参照指標	全授業クラス数 うち大学院 (毎年度 5 月 1 日時点)

目標1<指標1>1(5)③シラバスの英語化の状況・割合うち学部

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
目標	—	—	3580科目	—	—	9500科目
実績	1235科目	1344科目	1447科目	1489科目	2763科目	7239科目
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度以降	—
目標	—	—	—	9600科目		
実績	9614科目	10,641科目	11,566科目			

目標2<指標2>1(5)③シラバスの英語化の状況・割合うち大学院

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
目標	—	—	520科目	—	—	3450科目
実績	203科目	218科目	190科目	181科目	445科目	2920科目
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度以降	—
目標	—	—	—	3500科目		
実績	3767科目	3820科目	3904科目			

目標3<指標3>参照指標 全授業クラス数 うち学部

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
目標			9400科目			9500科目
実績	9285科目	9509科目	9649科目	9882科目	9558科目	9558科目
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度以降	—
目標				9600科目		
実績	9614科目	10,641科目	11,566科目			

目標4<指標4>参照指標 全授業クラス数 うち大学院

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
目標			3400科目			3450科目
実績	3185科目	3258科目	3152科目	3474科目	3837科目	3856科目
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度以降	—
目標				3500科目		
実績	3767科目	3820科目	3904科目			

2. 実施計画:ロードマップ

		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
シラバスの全科目 英語化 1) 科目情報の基本項目の英語化	策定段階					
	2023年3月末段階	現行どおり授業での使用言語に応じたシラバス記載を依頼	FD部会にてシラバス英語化方策検討 教務システム改修調整	2019年度開講科目分からのシラバス英語化実施方を協議 教務システム改修調整	教務システム改修調整	(リプレース実施後) 2019年度開講科目分より基本項目の英語化実施
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	策定段階	全科目英語化完了	全科目英語化完了			
	2023年3月末段階	基本項目の英語化完了 「授業目的」「到達目標」の英語化完了	基本項目の英語化完了 「授業目的」「到達目標」の英語化完了	完了	完了	完了
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
	策定段階					
2023年3月末段階	完了					
	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	
授業外学習時間の促進 (シラバス記載ルールの改訂)	策定段階			記載ルール改訂		
	2023年3月末段階	教務システム改修検討	FD部会にて記載フォーム変更検討	2019年度開講科目分からの記載フォーム変更を協議 教務システム改修調整	教務システム改修調整	(リプレース実施後) 2019年開講科目入力より必須化
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	策定段階					
	2023年3月末段階	記載ルール改訂完了	シラバス執筆依頼時に、授業外学習時間に入力するよう依頼	1-(12)-⑧で検討	1-(12)-⑧で検討	1-(12)-⑧で検討
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
	策定段階					
2023年3月末段階	1-(12)-⑧で検討					

3. 実施計画:費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】						
非公開						
経費	2014年度承認	2015年度承認	2016年度承認	2017年度承認	2018年度承認	2019年度承認
非公開						
人員・人件費	2014年度承認	2015年度承認	2016年度承認	2017年度承認	2018年度承認	2019年度承認
非公開						
経費	2020年度承認	2021年度承認	2022年度承認	2023年度承認	2024年度以降	
非公開						
人員・人件費	2020年度承認	2021年度承認	2022年度承認	2023年度承認	2024年度以降	
非公開						

4. 進捗状況・得られた成果

2016 年度	<p>■1(5)③ ※シラバスの英語化の状況・割合 シラバスの基本項目の日英併記は 2019 年度記載分よりデフォルトで設定。また、科目選択時に当該科目の使用言語欄で使用言語を確認して履修ができるようプルダウンメニューを入れる。さらに、到達目標や授業目的、授業計画については日英併記での記載を授業担当者に要請する取組を開始した。</p> <p>■3(1)①学生の実質的学びの時間の確保に関する取組 授業時間外学習を促進する観点から、2017 年度分シラバスより授業担当者に各授業計画欄に、授業内容とともに各回に必要な授業時間外学習内容及び概ねの目安時間を記載いただくよう要請する取組を開始した。2019 年度分シラバスからは各回の授業時間外学習内容記載欄を設ける取組を開始する。</p>
2017 年度	2016 年度に引き続き、各授業計画欄に各授業回と連動した授業時間外学習内容及び概ねの目安時間の記載について授業担当者に要請する取組を続けた。また、シラバスを日本語で作成する場合には、「授業目的」「到達目標」「授業計画」の3項目に関して、各欄に可能な限り英語もしくはその他の外国語にて併記するよう依頼する取り組みを開始した。
2018 年度	到達目標や授業目的、授業計画の日英併記については、徐々に浸透してきたためか入力件数が増加している。2019 年度シラバスからは到達目標、授業目的の英語欄が新設され 2020 年度シラバスからは入力必須とする。また、授業時間外学習を促進する取組についても、2019 年度シラバス記載から各回の授業時間外学習を設定できる「授業回毎の欄(各回欄)」と、授業時間外学習の内容を一括で記載できる「まとめ欄」を新設する。
2019 年度	2019 年度シラバス(2018 年度内に入力)から「授業目的」「到達目標」欄の英語欄が新設され、入力を推奨したこともあり、大幅に入力件数が増加した。さらに、2020 年度シラバス(2019 年度内に入力)から入力必須としたため、入力の割合は 100%となった。
2020 年度	昨年度に引き続き、2021 年度シラバス(2020 年度内に入力)の「授業目的」「到達目標」欄の入力の割合は 100%となった。
2021 年度	昨年度に引き続き、2022 年度シラバス(2021 年度内に入力)の「授業目的」「到達目標」欄の入力の割合は 100%となった。

5. 今後の課題及び方向性

2018 年度	シラバスの基本項目の日英併記は 2019 年度記載分よりデフォルトで設定するようシステム改修を行う。また、科目選択時に当該科目の使用言語欄で使用言語を確認して履修ができるようプルダウンメニューを入れる(但し、英語で実施される科目かそれ以外かを識別する程度の選択肢のみ設定)。シラバス記載内容の英語化の推進については、2017 年度分の記載より学長名での協力要請を各教員に出しているが、到達目標や授業目的、授業計画の日英併記はまだ浸透できていないため、新たな取り組みを検討する必要がある。また、授業時間外学習を促進する取組は、システムを改修し、2019 年度シラバス記載から各授業回と連動させての欄を新設し、記載を推奨することを予定している。
2019 年度	授業時間外学習欄については、現在、「各回欄」と「まとめ欄」のいずれかが必須項目となっているが、各回の授業時間外学習の入力を推奨していくため、負担感を軽減する取り組みを検討し続ける必要がある。また、2020 年度シラバスからは到達目標、授業目的の英語欄が入力必須となるため、英語入力の割合は 100%となる予定である。
2020 年度	上記参照
2021 年度	到達目標、授業目的の英語欄の入力が必須となったこともあり、英語入力の割合が 100%となったため、「シラバスの英語化」は完了としたい。「授業外学習欄への入力」については、2021 年度シラバス執筆依頼時(2020 年度に依頼)に各回の授業外学習欄の入力を推奨した。今後、2021 年度シラバスの授業外学習欄の入力状況を確認し、引き続き、2022 年度シラバス執筆依頼時も各回の授業外学習欄の入力を推奨していくが、その点については、「1-(12)-⑧シラバスの実質化」で検討することとし、本実施計画は完了としたい。

2022 年度	—
2023 年度	—

6. 学院総合企画会議の基本方針

2014 年度	教務システム改修については、＜保留＞。保守費(年額)については、申請どおり予算化を承認します。
2015 年度	教務システム改修および保守料について、申請どおり計画を承認します。※構築後の保守費についても原則として承認。
2016～2019 年度	—
2020 年度	—
2021 年度	保守費(成績登録)、保守費(シラバス英語併記対応)、保守費(シラバス授業外学習欄)、保守費(大学院 GPA)については、これまで SGU 関連分を切り分けて計上していましたが、他と一体的に運用されているため、22 年度より計上を不要とします。
2022 年度	—

7. Total Review の結果

【フェーズ I (2019～2021)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
<ul style="list-style-type: none"> ・シラバス記入項目のうち、「授業目的」「到達目標」の英語欄を必須項目としたため、「シラバスの英語化」としては終了となる。 ・「授業外学修」欄への入力推奨のための告知等を進める。 	継続 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 廃止	・シラバス「授業外学修」欄への入力促進を終え、2022 年度以降は、1-(12)-⑧と連動して進めていく。

【フェーズ II (2022～2024)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
	継続 ・ 廃止	